

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1443 号	氏名	戸次 鎮宗
学位審査委員	主 査	中尾 一彦	
	副 査	川上 純	
	副 査	江口 晋	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は肝細胞癌の予後予測バイオマーカーとしての血清キヌレニン値の意義、有用性を検討しており、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 肝細胞癌初回診断症例 604 名、肝細胞癌非合併慢性肝疾患症例 288 名を対象に血清キヌレニン値を測定し、生命予後との関連について、肝予備能、肝癌ステージを含めて、統計学的手法を用いて検討しており、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 肝細胞癌患者は、肝細胞癌の無い患者よりも血清キヌレニン値が有意に高く、多変量解析の結果、血清キヌレニン値は肝細胞癌の予後に関連する独立した因子であった。血清キヌレニン値 900 以上、600～899、600 未満で層別化すると、キヌレニン値が高いほど 5 年生存率は低かった。肝予備能の良い Child-Pugh A のみでの検討、BCLC stage 0 及び A の早期肝癌ステージに限った検討でも、キヌレニン高値例は予後不良であった。 先行研究に於いて制御性 T 細胞の活性化、腫瘍細胞の増殖促進作用を持つとされるキヌレニンが、肝細胞癌患者の血清に於いて高値を示し、かつ生命予後の予測に有用であることを明らかにした本研究の意義は大きいと考える。</p> <p>以上のように本論文は、肝細胞癌の予後予測バイオマーカー研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			